

○星乃 光有, 宮川 英子, 岩倉 未香子, 平田 真哉

熊本大学医学部 血液・膠原病内科

【目的】プレガバリン(リリカ®)は線維筋痛症・慢性疼痛患者の疼痛治療に有効である。その使用法は150mgより開始し、300mgに漸増することが一般的である。一方、一部の患者では、ねむけ・ふらつき等の副作用のため服用困難な例がある。今回、一般的な開始用量である150mg未満でのプレガバリンの低用量投与での有効性を評価した。

【方法】当院で加療中の線維筋痛症・慢性疼痛患者へ一般的な開始用量である150mg未満の低用量プレガバリンを投与し、その有効性を評価した。

【結果】線維筋痛症・慢性疼痛患者に対し低用量のプレガバリン投与したところ、14名に効果を認めた。プレガバリンの用量は100mg持続投与が5名、50mg屯用が3名、25mg屯用が6名であった。

【結論】線維筋痛症・慢性疼痛患者への低用量プレガバリン投与は有用であるとともに屯用も有用であった。一般的用量で副作用等で服用困難な患者に対して、低用量プレガバリン投与は治療の選択枝となると考えられる。

利益相反：無